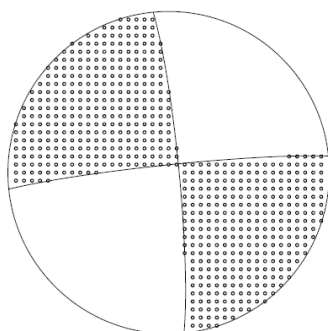


7月10日ソロモン諸島の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

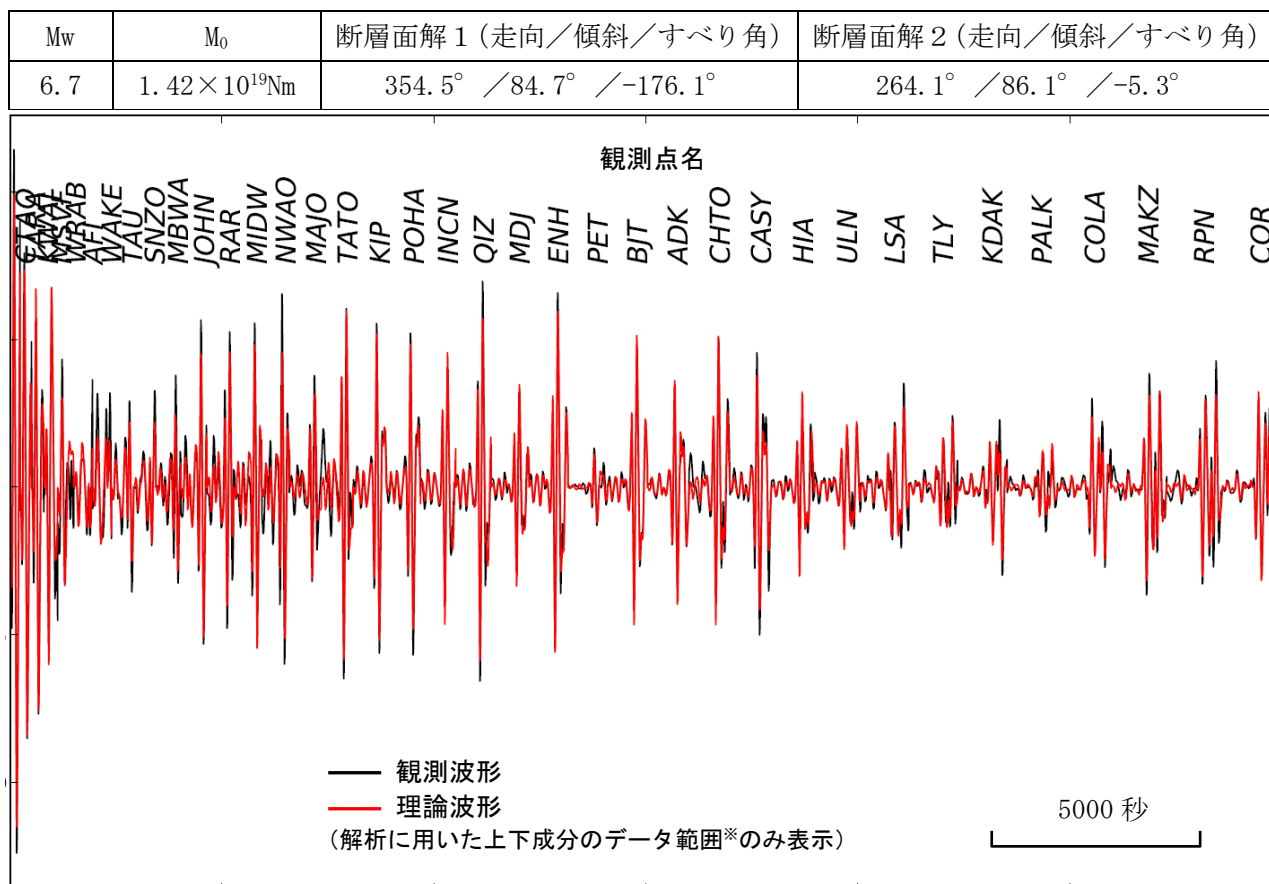
W-phase による解



2015年7月10日13時12分(日本時間)にソロモン諸島で発生した地震についてW-phaseを用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは6.7であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はS9.4°、E158.1°、深さ14kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの37観測点の上下成分、26観測点の水平成分を用い、100~300秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



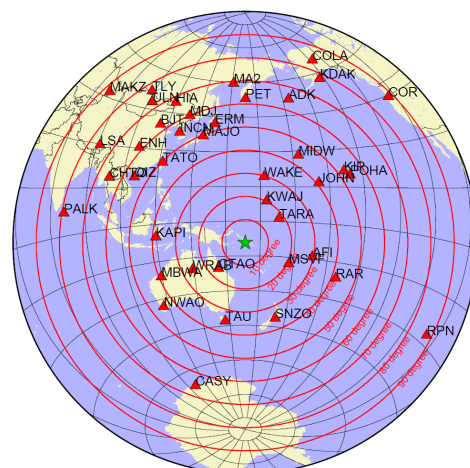
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データにはIRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成